(２)連結財政状態に関する定性的情報

【資産、負債、純資産の状況】

（単位：億円）

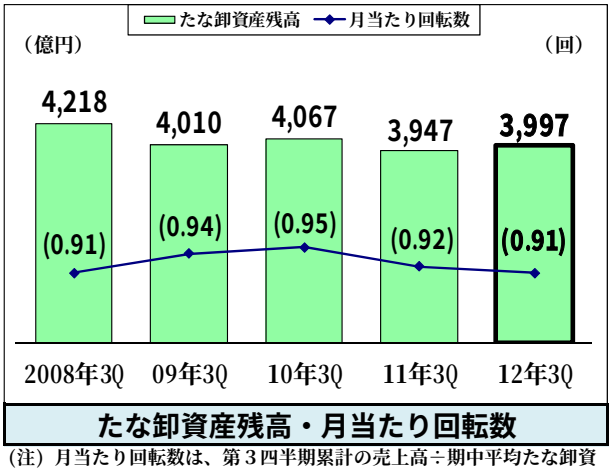
	2011年度 (2012年3月31日)	2012年度 第３四半期 (2012年12月31日)	増　減	2011年度 第３四半期 (2011年12月31日)
流動資産	17,017	17,006	△11	17,019
（現金及び預金並びに有価証券）	(2,739)	(3,191)	(452)	(3,270)
（受取手形及び売掛金）	(9,013)	(7,786)	(△1,226)	(7,803)
（たな卸資産）	(3,341)	(3,997)	(656)	(3,947)
固定資産	12,437	11,857	△579	12,155
（有形固定資産）	(6,409)	(6,082)	(△326)	(6,301)
（無形固定資産）	(2,302)	(1,898)	(△404)	(2,316)
（投資その他の資産）	(3,724)	(3,876)	(151)	(3,536)
資産合計	29,455	28,864	△590	29,174
流動負債	14,174	14,386	212	14,777
（支払手形及び買掛金）	(6,177)	(5,458)	(△719)	(5,587)
（短期借入金及び1年内社債）	(1,289)	(2,894)	(1,605)	(3,321)
（未払費用）	(3,425)	(2,928)	(△497)	(2,841)
固定負債	5,614	5,838	223	5,339
（社債及び長期借入金）	(2,522)	(2,572)	(50)	(2,525)
（退職給付引当金）	(1,804)	(1,853)	(48)	(1,730)
負債合計	19,789	20,225	436	20,116
株主資本	9,260	8,153	△1,106	8,847
その他の包括利益累計額	△850	△759	90	△1,050
少数株主持分	1,254	1,244	△10	1,259
純資産合計	9,665	8,639	△1,026	9,057
負債純資産合計	29,455	28,864	△590	29,174

【キャッシュ・フローの状況】

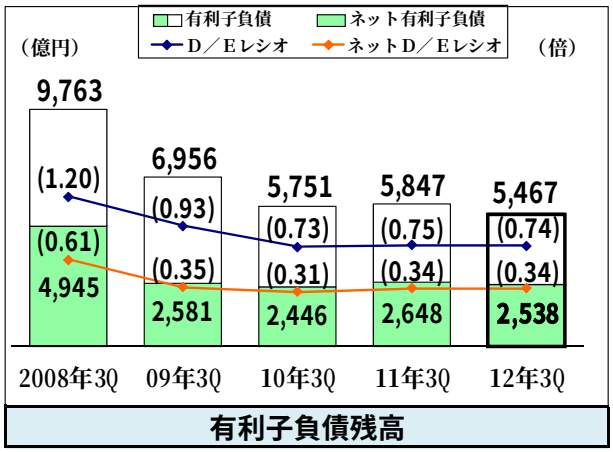
（単位：億円）

	2011年度 第３四半期累計 (2011年4月1日～ 2011年12月31日)	2012年度 第３四半期累計 (2012年4月1日～ 2012年12月31日)	前年同期比
Ⅰ営業活動によるキャッシュ・フロー	252	206	△46
（税金等調整前四半期純利益）	(△86)	(△814)	(△728)
（減価償却費及びのれん償却額）	(1,529)	(1,435)	(△94)
（減損損失）	(-)	(280)	(280)
（引当金の増減額（△は減少））	(△189)	(84)	(273)
（売上債権の増減額（△は増加））	(660)	(1,363)	(703)
（たな卸資産の増減額（△は増加））	(△628)	(△643)	(△14)
（仕入債務の増減額（△は減少））	(△241)	(△832)	(△591)
（法人税等の支払額）	(△311)	(△181)	(130)
Ⅱ投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,328	△1,228	100
（有形固定資産の取得による支出）	(△967)	(△800)	(166)
（無形固定資産の取得による支出）	(△384)	(△437)	(△52)
（事業譲渡による収入）	(-)	(102)	(102)
Ⅰ+Ⅱフリー・キャッシュ・フロー	△1,075	△1,022	53
Ⅲ財務活動によるキャッシュ・フロー	758	1,243	485
（借入金の純増減額（△は減少））	(1,619)	(1,556)	(△62)
（社債の発行及び償還）	(△427)	(51)	(478)
（配当金の支払額）	(△226)	(△230)	(△3)
Ⅳ現金及び現金同等物の四半期末残高	3,199	2,929	△269

① 資産、負債、純資産の状況



たな卸資産残高・月当たり回転数



有利子負債残高

（注）月当たり回転数は、第３四半期累計の売上高÷期中平均たな卸資産残高÷9により算出しております。なお、期中平均たな卸資産残高は各四半期末のたな卸残高の平均残高を使用しております

当第３四半期末の総資産残高は２兆８,864 億円と、前連結会計年度（以下、前年度）末から 590 億円減少しました。流動資産は１兆７,006 億円と前年度末から 11 億円減少しました。受取手形及び売掛金は前年度末に集中した売上に係る受取手形及び売掛金を回収したことなどにより前年度末から 1,226 億円減少しました。たな卸資産は 3,997 億円と、今後の売上に対応するため、サービスビジネスや携帯電話を中心に前年度末から 656 億円増加しました。資産効率を示す月当たり回転数は 0.91 回と、ほぼ前年同期末並みになりました。固定資産は１兆1,857 億円と、前年度末から 579 億円減少しました。有形固定資産はＬＳＩ事業に係る固定資産の減損などにより前年度末から 326 億円減少しました。無形固定資産は欧州子会社に係るのれんの減損などにより前年度末から 404 億円減少しました。

負債残高は２兆 225 億円と、前年度末から 436 億円増加しました。支払手形及び買掛金は前年度末に集中した売上に対応する支払いにより 719 億円減少しました。有利子負債残高は 5,467 億円と、前年度末から 1,655 億円増加しました。運転資金の一部を短期借入金で調達しました。これによりＤ／Ｅレシオは 0.74 倍と前年度末より 0.29 ポイント増加し、ネットＤ／Ｅレシオは 0.34 倍と前年度末より 0.2 ポイント増加しました。前年同期末とはほぼ同じ水準です。

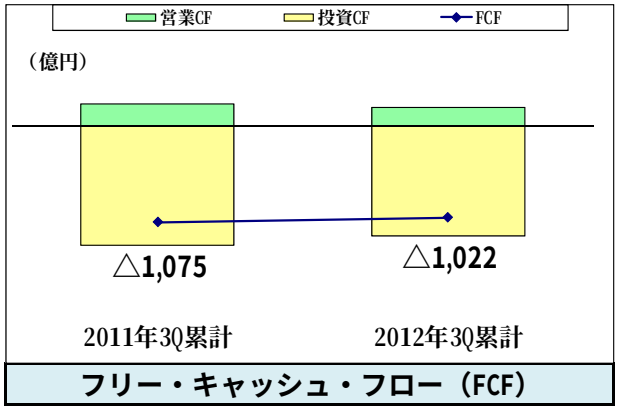
純資産は 8,639 億円と、前年度末から 1,026 億円減少しました。株主資本が四半期純損失の計上や配当金の支払いなどにより前年度末から 1,106 億円減少しました。その他の包括利益累計額は為替レートが円安に転じたことや株価の上昇により前年度末から 90 億円増加しました。自己資本比率は 25.6%と、自己資本の減少により前年度末から３ポイント減少しました。

（単位：億円）

	2011 年度 （2012 年３月 31 日）	2012 年度第３四半期 （2012 年 12 月 31 日）	増　減	2011 年度第３四半期 （2011 年 12 月 31 日）
現金及び現金同等物の期末残高	2,666	2,929	262	3,199
有利子負債の期末残高	3,811	5,467	1,655	5,847
ネット有利子負債の期末残高	1,144	2,538	1,393	2,648
自己資本	8,410	7,393	△1,016	7,797
Ｄ／Ｅレシオ	0.45 倍	0.74 倍	0.29 倍	0.75 倍
ネットＤ／Ｅレシオ	0.14 倍	0.34 倍	0.20 倍	0.34 倍
株主資本比率	31.4 %	28.2 %	△3.2 %	30.3 %
自己資本比率	28.6 %	25.6 %	△3.0 %	26.7 %

（注）1. Ｄ／Ｅレシオは、有利子負債の期末残高÷自己資本により算出しております。
2. ネットＤ／Ｅレシオは、（有利子負債の期末残高－現金及び現金同等物の期末残高）÷自己資本により算出しております。

②　キャッシュ・フローの状況



当第３四半期(累計)の営業活動によるキャッシュ・フローは 206 億円のプラスとなりました。前年同期からは 46 億円の収入減となりました。 ＬＳＩ事業に係る事業構造改善費用などの特別損失計上により税金等調整前四半期純利益は大幅に悪化しましたが、一方で減損損失や引当金の繰入額なども増加しました。また、欧州金融子会社の清算などに伴い前年度の税金負担が減少したことにより法人税等の支払額が減少しました。

投資活動によるキャッシュ・フローは 1,228 億円のマイナスとなりました。データセンター関連を中心とした設備投資により有形固定資産の取得で 800 億円支出したほか、ソフトウェアを中心に無形固定資産の取得で 437 億円支出しました。また、ＬＳＩ事業の岩手工場及び後工程製造拠点の譲渡に伴う固定資産等の売却などによる収入が 102 億円ありました。前年同期からは 100 億円の支出減となりました。有形固定資産の取得による支出が減少したことなどによります。

営業活動及び投資活動によるキャッシュ・フローを合わせたフリー・キャッシュ・フローは 1,022 億円のマイナスと、前年同期からは 53 億円の支出減となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは 1,243 億円のプラスとなりました。運転資金の一部を短期借入金で調達しました。前年同期からは 485 億円の収入増となりました。

この結果、現金及び現金同等物の四半期末残高は 2,929 億円と、前年度末からは 262 億円増加しました。